

栽培実証 現在までの進捗状況



一般社団法人

やまなし新事業創出機構

Yamanashi New Business Creation Organization



山梨県と国内最大の花き卸売り市場「株式会社大田花き」と連携協定の内容（一部抜粋）

山梨県は、2024年1月9日に国内最大の花き卸業社である「株式会社大田花き」と切り花の産地拡大を目的とした花き生産振興で連携協定を結んだ。

今後、山梨県は大田花きと協力体制を作り、**①市場のニーズに合わせた新品種の開発・生産**や、**②寒冷な地域などでの実証栽培**を行うなど、年内の切花市場規模拡大に向けた取り組みを実施する。

大田花きが都道府県と連携協定を結ぶのは国内初であり、出荷基準を満たした花きについては農家から全量を買取り、農家の収入の安定化を図る。現在の県内の花き生産額は年間約40億円。今後、**県を挙げての振興により100億円**を目指す。

山梨県と大田花きは、**県内の寒冷地（北杜市や山中湖村）**を利用し、夏場に強い品種の実証栽培を行い、花き供給面で不足している夏場の対応をすることで、全国の需要に対応し、消費拡大に取り組む方針で合意している。



2024年1月9日に行われた、連携協定締結の様子



テレビ山梨にて放映された様子



- 協定の目的
山梨県における花き生産振興
- 協定の内容と各機関との役割分担

協定内容	機関名	役割分担
① 産地の気象条件に適した花きの品目・品種の検討・提案に関すること。	生産者・県農政部 (株)大田花き	・栽培実証品目、品種、地域等の検討・選定 ・品目、品種の需要動向の情報提供 ・有望品目、品種の提案
	(一社)やまなし新事業創出機構 種苗会社 (大田花き関係会社)	・生産者と(株)大田花き相互間の連絡調整 ・新品種の開発 ・品目、品種の栽培特性等の情報提供
② ①の品目・品種の実証、生産技術の確立・普及に関すること。	生産者	・提案品目、品種の栽培実証 ・生産物に関する栽培技術の習得 ・需要に合わせた生産・出荷
	県農政部	・提案品目、品種及び新技術等の栽培実証支援 ・実証品目・品種の実証技術のマニュアル化及び産地への普及 ・生産者の経営指導
	(株)大田花き	・生産物の評価及び助言 ・生産物の流通経路の確保
	(一社)やまなし新事業創出機構 種苗会社 (大田花き関係会社)	・遊休農地/ハウスの確保、担い手の確保・育成、農家/農業法人等との連携促進、補助制度の活用支援等 ・種苗の供給 ・導入品目、品種の栽培指導
③ 県産花きの情報発信に関すること。	生産者	・県が行う県産花き情報の収集への協力
	県農政部	・(株)大田花きへの県産花き情報の提供
	(株)大田花き	・実需者及び消費者への県産花き情報の発信
	(一社)やまなし新事業創出機構	・栽培や収益に関する情報収集・発信 (モニタリング)
④ その他花きの生産振興に資すること。	生産者・県農政部	・花き生産者の出荷体制の把握、共有
	(株)大田花き	・2024年問題を踏まえた効率的物流の提案・支援
	(一社)やまなし新事業創出機構	・関係機関と連携した効率的物流の検討支援

山中湖村

富士北麓エリア 寒冷地モデル

観光と産業の両立を目指す！ 冷涼な気候を生かした夏秋期の旬の高品質切り花生産

山中湖村ならではの特徴を生かした
産業と観光が連携した新事業



花の村づくり構想 2024年5月スタート

「花の村」づくり構想の柱となる3つの事業計画

1. 花き産業の創出

現在活用されていない屋内テニスコート場の施設を、花きの観光と産業の拠点に改修し、山中湖の新たな施設として開発を行う事業計画（花の駅構想）。

- ・山中湖の経済を支える収益性が高い花き産業
- ・新たな雇用を生み出す花き産業
- ・生産者と販売者が連携した流通や販売システム構築

2. 花の産業に支えられた観光

高冷地ならではの美しい花々で観光客をお迎えするとともに重要な玄関口である「花の都公園」をより魅力のある施設へとブラッシュアップする事業計画。

- ・魅力にあふれた季節の花々を栽培することで、来場者の増加、リピーターの増加を図る
- ・栽培した花きを利用した地元の特産物(食やお土産)を開発する
- ・観光客の方々が参加・体験ができるツアープログラムづくりを行い滞在型の客層を増やしていく

3. 花の村づくり

山中湖村エリアに入ると、そこが「花の村」だと納得できるような花であふれた景観の村づくりの計画。

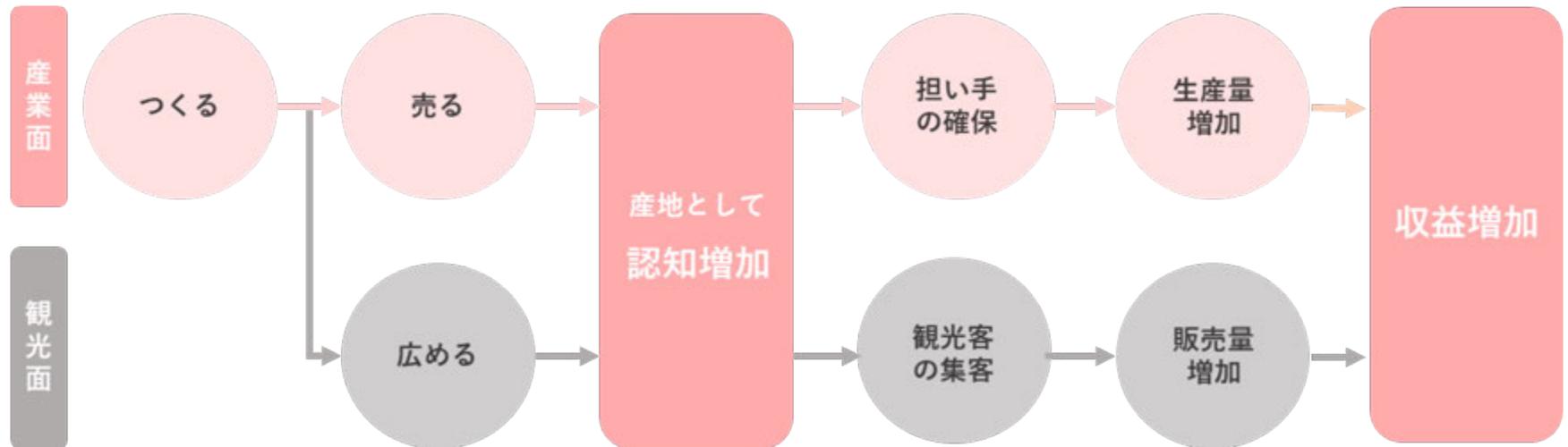
実現に向けた戦略 山中湖村

「産業と観光の連携」の重要性

産業と観光が連携することが重要です。理由としては、現在の山中湖村は、花き栽培においてはスタートラインの段階にあり、「**花きの産地**」としての認知度は低いですが、年間約20万人の観光客が訪れる実績のある花の都公園を活用することで、「**花の産地**」としての山中湖村を効率的かつ効果的にPRできるため、認知拡大や生産力（担い手確保）向上に寄与すると思われます。

また、段階的に、花の展示・販売、体験、教育プログラム等を実施していくことで、花きの産地としての魅力と収益性を高めることが期待できます。

産業と観光の連携イメージ



花の都公園での具体的な取組

「観る花」から「買う花」「出荷できる花」への転換

背景

2024年1月9日山梨県と国内最大の花き卸売り市場「株式会社大田花き」と
産地拡大を目的とした連携協定を締結（ページ p2、p3参照）

取組① 産業への取組

山中湖村での花き栽培において、大田花きへの出荷額を3年後は1億円規模を目指す。

花の都公園周辺から山中湖村（寒冷地）をモデルに、栽培可能な強い品目を選定し、約14,000坪の実証栽培をスタートする。

2024年は担い手に対する説明会、研修会を定期的に行い、約2,000坪での栽培で初の出荷を目指す。

取組② 産業と観光を連携した取組

花の都公園を山梨県の花き産業を広げる県内花き総合プラットフォームを目指す。

- 1、日本の花愛好家が集う聖地として認知拡大
- 2、園芸文化協会と連携し、定期展示会を実施する
- 3、公園内で次世代農業に向けたモデルを構築し、検証発信拠点を狙う
- 4、富士五湖首都圏フォーラムと連携し、国際シンポジウム等の開催を目指す
- 5、生産者が、栽培した花や独自のアレンジメント作品、さらに農作物などを販売できる場所を提供し消費拡大
- 6、花に触れる機会、移住・就農促進の機会を創出する
（ワークショップ、体験及び教育農場、セミナー、栽培に関する情報発信、苗及び特産品の販売等）

2024年5月21日～実証栽培スタート

花の都公園周辺から山中湖村（寒冷地）をモデルに、栽培可能な強い品目を選定し、約14,000坪の実証栽培をスタート！ 2024年は約2,000坪で初出荷を目指す！

山中湖村で3年後は1億円を目指す！

花の都公園 栽培実証計画

2024年（1年目）約3,000坪

露地栽培 8品目

2025年（2年目）約10,000坪

露地栽培 25品目

2026年（3年目）約15,000坪

露地栽培 27品目 ハウス栽培 5品目

2026年（3年後）花の都公園周辺農地約15,000坪で1億円の出荷を目指す



山中湖花の都公園試験圃場サイズ他 (2024年:1年目)



山中湖村（花の都公園での切り花栽培）露地約3,000坪
コンセプト：観光と産業の両立を目指す！ 冷涼な気候を生かした夏秋期の旬の高品質切り花生産
栽培品目：ノリウツギ リビングシリーズ900坪、ダリア、ヒマワリ、ジニア、ケイトウ、コスモス、マリーゴールド、千日紅、ベッチーズブルー2,000坪強



8品目 想定人員4名（指導、経験者各1名）/約6ヶ月稼働

【品目訂正版(24.4/2)花の都公園/作型スケジュール(露地 1年目)



	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
ダリア			🌱			🌸	-----	🌸				
コスモス				🌱	🌱	🌱		🌸	-----	🌸		
マリーゴールド			🌱	🌱			🌸	-----	🌸			
ケイトウ①			🌱			🌸	-----	🌸				
ケイトウ②				🌱		🌸	-----	🌸				
ヒマワリ			🌱	🌱	🌱	🌸	-----	🌸				
ジニア			🌱	🌱			🌸	-----	🌸			
千日紅			🌱	🌱			🌸	-----	🌸			
クラスペディア(ドラムスティック)				🌱			🌸	-----	🌸			
瑛ノアス(ベッチーズブルー)					🌸	-----	🌸				🌱	



ダリアほ場



▲畝立て+マルチシート貼り作業 3名の作業でスピードアップするが課題大



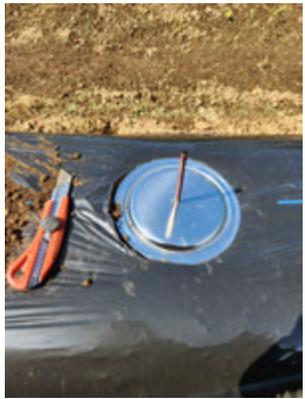
▲畝立て・マルチ貼り後の土（やわらかい）



▲夜盗虫被害にあった土（硬い）



▲ダリアピンチ



▲スタッフ考案のマルチ穴開け機



▲ポットあげダリア



▲ポットあげダリア定植



▲ポットあげダリア定植



▲プラグのまま植えた苗



▲ダリアピンチ前



▲ダリアピンチ後



▲ハイカビ



▲株元に液肥散布



◀ダリアピンチ:3節目をカット

ケイトウほ場、ヒマワリ種まき



▲水が溜まる部分が広範囲であることと石が混ざり込んでいるため課題大

▲マルチ穴あけ作業は3人で1例行うのに1日。マルチに穴が空いてあるものか、熱でマルチシートに穴を開けるものを用意する必要もありか？

▲ハウス内にてポットあげ戦略に変更

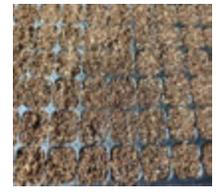


▲土が雨に濡れると土が粘土みたいになるため、苗を植えても根がはらない

▲倉庫保管のケイトウ

▲南アルプスにて移植後のケイトウ定植

▲ケイトウ2畝ダメになったところにひまわり種まき



▲ハウス内にて種まき ●プラグを用意して十分にじょうろで水まきをする
 →種を1つずつ入れる→細かいふるいに種まき用の土をいれふるいをかけて覆土する→覆土をしたら霧吹きで水をかける じょうろは使わない→暗めのところで管理 発芽迄表面が乾かない程度毎日霧吹きをする

▲ケイトウ2畝にネキリムシ大量発見 応急でオルトラン散布

北杜市エリア

須玉町

北杜市での花栽培拡大を根差した見本切花園（米からの転作を促す狙い）露地1,800坪

高根町

農事組合法人サングリーン 2022年 南天定植 2024年初出荷予定

（米からの転作を促す狙い）露地300坪



▲北杜市高根町 南天



▲北杜市須玉町 ノリウツギ

北杜市（ミラプロ本社前圃場 露地1,500坪）露地約3,000坪
 コンセプト：北杜市での花栽培拡大を根差した見本切花園（米からの転作を促す狙い）露地1,800坪
 栽培品目：ノリウツギ リビングシリーズ900坪 南天300坪 葉ボタン、ケイトウ、千日紅600坪



山梨県北杜市「須玉町」/作型スケジュール(1年目/露地)

想定人員4名（指導、経験者各1名）/約6ヶ月稼働

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
マリーゴールド							-----					
千日紅							-----					
ハボタン												

北杜市（ミラプロ本社前圃場 露地1,500坪）露地約3,000坪

コンセプト：北杜市での花栽培拡大を根差した見本切花園（米からの転作を促す狙い）露地1,800坪

栽培品目：ノリウツギ リビングシリーズ900坪 南天300坪 葉ボタン、ケイトウ、千日紅600坪



甲斐市エリア

甲斐市龍地

農福連携による新規花栽培（野菜からの転作）露地4,000坪～



福祉施設で作る新鮮お野菜

山梨県で「障がい者就労継続支援B型事業所」として、地域とのコミュニケーションを図りながら利用者さんたちが耕作放棄地を近隣の高齢農家さんからお借りして、有機無農薬でお野菜やハーブの栽培をしております(^o^)/ます。

形がふぞろいだったり多少のキズや虫食いがございますがご了承ください



韮崎市 ふくろうファーム露地（双葉SA北西部エリア）露地4,000坪

コンセプト：農福連携による新規花栽培（野菜からの転作）

栽培品目：ノリウツギ リビングシリーズ、スモークツリー、アナベル、コバノズイナ、ユキヤナギ、ベニスモモ、フジバカマ、姫ヒマワリ、ルドベキア、スピードリオン、ヒマワリ、ケイトウ、葉ボタン



山梨県甲斐市「ふくろうファーム」様/作型スケジュール(1年目/露地)

14品目 想定人員10名（指導、経験者各1名）

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
ヒマワリ				-----			-----					
ケイトウ								-----				
ハボタン												



甲斐市 ふくろうファーム露地（双葉SA北西部エリア）露地4,000坪

コンセプト：農福連携による新規花栽培（野菜からの転作）

栽培品目：ノリウツギ リビングシリーズ、スモークツリー、アナベル、コバノズイナ、ユキヤナギ、ベニスモモ、フジバカマ、姫ヒマワリ、ルドベキア、スピードリオン、ヒマワリ、ケイトウ、葉ボタン



▲ふくろうファーム視察



▲ふくろうファーム視察



▲ふくろうファーム視察



▲ふくろうファーム フジバカマ定植



▲ふくろうファーム フジバカマ定植



▲ふくろうファーム フジバカマ定植



▲6月14日 今期定植予定の一年草の視察及び計画打ち合わせ フクロウファームさんの事務所（甲斐市龍地6559-1）



◀山梨県中北農務事務所 農業農村支援課 生産振興第一担当 副主幹 石田さま
大田花き穴戸部長、ミヨシ 松永さま やまなし新事業創出機構 小澤



▲ノリウツギ リビングシリーズ他定植済み宿根草

2024.5.16 南アルプス市視察

〒400-0225 山梨県南アルプス市築山5000
Mobile.090-6922-0585
株式会社アウトティングプロダクツエルク経営のキャンプ場とロッジ
株式会社GATES 代表取締役 柳沢 隆広様

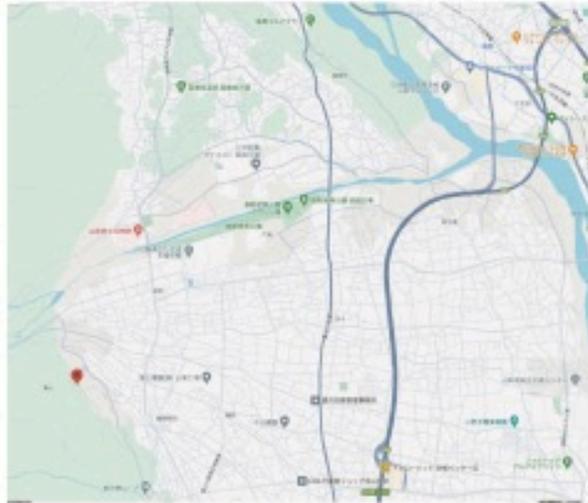
山梨県南アルプス市築山205
山梨県花き園芸組合連合会 顧問
飯田 裕彦様
Tel. 055-285-2792 fax.055-285-2030 Mobile.090-3245-2200

【大田花き中央部長見解】

下記①② 赤線範囲は、山地の法面を階段状にした、約300坪程度の東向き敷地（西が山のため、日没の時間は早い）。下記左側写真には、伐採した樹木の切り株が残っている。出荷生産よりもコテージ宿泊者などのviewを楽しませる施設として最適（？）
いずれにしても「ほったらかし状態」で生産できる、ノリウツギやブルーベリーなどの植栽が適当。

苗を定植するためには、最低限の圃場整備（土木工事）が必要となり、現状の美観的な整備も必要。また出荷に関しては大量は期待できないが、シンビジウムを生産出荷している花き農家の飯田様の協力にはかなり期待が高まる。

②エリアに関しては、2つの瀑に挟まれた自然の谷になっているため、生産よりも、自然に生息する植物採集利用のほうが適している。



中央自動車道双葉ICを静岡方面、白根IC、R52,R42（富士川街道 旧R52）飯野交差点西折、西進して森林のつづら折りの坂道登る

- ①はコテージ+テントサイト
- ②はロッジ https://www.porta-y.jp/leisure_culture/116894



コテージから見た東斜面（植栽予定地）



コテージ施設

打合せ



（左から）ロッジから見た東斜面 - ロッジ東面 - 屋外調理スペース

山梨市エリア

山梨市牧丘：農閑期利用と果樹離農農家向け、促成花木や葉ボタンの栽培を提案中。
栽培品目に関しては、果樹栽培を引退した年配者向け最良品目も再度検討

▼フルーツと花の郷山梨市遊休農地を活用した花き栽培についての意見交換会開催



参加者：
山梨市市長、山梨市農林課、
地域資源開発課、観光課、
山梨県農政部花き水産課、
山梨県峡東農務事務所
山梨県農業技術センター、
牧丘 くだもの厨房フクヨシ原代表、
株式会社大田花き 開発部長 宍戸 純、
一般社団法人やまなし新事業創出機構
高橋代表理事、理事 星ちえ子、
理事 浅川幸彦、理事 小澤球美

フルーツと花の郷山梨市遊休農地を活用した 花き栽培についての意見交換会

次 第

1. 日 時 令和6年5月22日（水）13：30～
2. 場 所 山梨市市役所 会議室
3. 参加者 山梨市市長、山梨市農林課、地域資源開発課、観光課、
山梨県農政部花き水産課、山梨県峡東農務事務所
山梨県農業技術センター、
牧丘 くだもの厨房フクヨシ原代表、
株式会社大田花き 開発部長 宍戸 純、
一般社団法人やまなし新事業創出機構高橋代表理事、
理事 星ちえ子、理事 浅川幸彦、理事 小澤球美

4. 内 容

時間	内容
13:30~13:40 (10分)	挨拶
13:40~13:45 (5分)	参加者の紹介
13:45~13:55 (10分)	山梨県と大田花き連携協定について
13:55~14:30 (30分)	大田花き宍戸部長、やまなし新事業創出機構より 1、山梨市の花き栽培の可能性について 2、現状の進捗状況について
14:30~15:00 (30分)	意見交換会

以上

峡東エリア

果樹閑散期の枝物栽培、
葉ボタンを提案中。

若手農家中心笛吹市意見交換会開催（峡東農務事務所）

▼笛吹市遊休農地を活用した花き栽培についての意見交換会開催



参加者：
山梨県峡東農務事務所、山梨県農業技術センター
株式会社大田花き 開発部長 穴戸 純 株式会社ミヨシ 松永 伸也
笛吹市、甲府市果物野菜生産者12名
一般社団法人やまなし新事業創出機構 理事 小澤球美
その他 関連企業

笛吹市の遊休農地を活用した 花き栽培についての意見交換会

次 第

1. 日 時 令和6年6月14日（金）18：30～
2. 場 所 山梨県峡東農務事務所 会議室
3. 参加者 山梨県峡東農務事務所、山梨県農業技術センター
株式会社大田花き 開発部長 穴戸 純
株式会社ミヨシ 松永 伸也
笛吹市、甲府市果物野菜生産者12名
一般社団法人やまなし新事業創出機構 理事 小澤球美
その他 関連企業

4. 内 容

時間	内容
18：30～18：40 (10分)	挨拶
18：40～18：40 (5分)	参加者の紹介
18：45～18：55 (10分)	山梨県と大田花き連携協定について
18：55～19：30 (30分)	株式会社大田花き穴戸部長、株式会社ミヨシ松永課長 1、笛吹市における花き栽培の可能性及び具体的な品目提案 2、露地栽培品目のシミュレーション 3、ハウス栽培の可能性について
19：30～20：00 (30分)	意見交換会

以上

